

豚流行性下痢（PED）の疑い事例（3例目）が発生しました！**【概要】**

発生地域	富士・東部地域(東部家畜保健衛生所管内)
戸数	1戸
飼育頭数	3,876頭
確認日	H26.5.17
状況	繁殖豚17頭が嘔吐、下痢、食滞 ほ乳豚336頭が下痢(うち2頭死亡) (H26.5.17現在)
検査	PEDの遺伝子確認、現在確定診断待ち

**本病は、感染家畜及び糞便に汚染された人や物によって
伝播するので、対策の徹底をお願いします。**

毎日、豚の健康観察を行う。

出入りする車両は、荷台等も含め全体を洗浄消毒する。

排せつ物の処理を適正に行う。特に液体は通常の曝気や塩素消毒処理ではウイルスは失活しない可能性があるため、可能な限り、浄化後の上清などは農場内で使用しない。

農地還元では、運搬経路や他の養豚場立地に十分注意する。

分娩豚舎への病原体侵入防止のため、分娩舎作業は専従とし、専用の衣類・履物を使用する。

河川水や地下水を使用する場合には、飲水用に限らず可能な限り、消毒する。

ワクチンの効果を十分に引き出すために、正しい接種を行うとともに、飼養衛生管理の徹底、導入時の隔離観察を行って下さい。

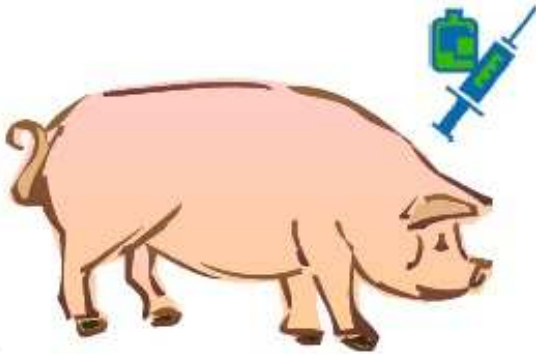
出荷前の豚をよく観察し、臨床症状がある豚は出荷しない。

飼養家畜に、下痢、嘔吐、食欲不振、死亡等の症状が確認された場合には、直ちに家畜保健衛生所へ通報してください。

家畜の病気に関するお問い合わせは山梨県西部家畜保健衛生所まで
電話・・・0551-22-0771 FAX・・・0551-22-6728
夜間の連絡は・・・090-5564-1018
土日・休日の連絡は・・・090-5564-1018 または090-5568-0817

豚流行性下痢(PED)ワクチンの正しい使い方

➤ ワクチンの特徴



妊娠豚の筋肉内へ2回注射することにより、分娩後、**乳汁を飲んだほ乳豚**の発症を防いだり、症状を軽くすることができます。

➤ 正しい使い方

1. 用法・用量を守って、**分娩前の妊娠豚に2回注射**すれば、十分な効果が得られます。

注意: 子豚に注射しても効果はありません。



2. 子豚に免疫をつけるため、母豚が乳を十分出しているか、乳を飲んでいない子豚がないかを確認しましょう。
3. ワクチンの効果を十分引き出すために、農場内をいつもきれいにし、消毒を徹底するなど、**日頃からの衛生管理**に気を付けましょう。

国内の発生(確定)状況は、農林水産省ホームページからご覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/ped/ped.html>